～次代を担う力を持った人間の育成～



恩方中だより

八王子市立恩方中学校
令和８年 10 月 30 日発行
第６号
校長　　植田　恭正

ホームページ　http://hachioji-school.ed.jp/ongtj/

仲間とともに成長する



朝夕の風に秋の深まりを感じる季節となりました。二学期も後半に入り、生徒たちは日々の学習や学校行事、部活動など、それぞれの活動に意欲的に取り組んでいます。

十月には、本校の大きな行事の一つである体育祭が行われました。昨年度から実施方法を大きく変更し、三つのチームに分かれて競技や応援に取り組む形となって二年目を迎えました。生徒たちは新たな体育祭の形をしっかりと受け止め、一人一人が自分の役割を果たしながら、仲間と協力して最後まで全力で取り組みました。競技に力を尽くす姿はもちろん、仲間を応援する姿や、チームのために努力する姿にも、生徒たちの成長を感じることができました。応援団の活動も体育祭を大いに盛り上げ、学校全体が一体となった、素晴らしい体育祭となりました。

また、当日は、御参観いただく保護者の皆様に、入場方法や駐車場の利用など、さまざまな面で御理解と御協力をお願いすることとなりました。御不便や御負担をおかけしたこともあったかと思いますが、皆様の御協力のおかげで、大きなトラブルもなく、無事に体育祭を運営することができました。心より感謝申し上げます。

行事の意義は、当日の結果や勝敗だけにあるのではありません。目標に向かって準備を重ね、時には意見の違いを乗り越えながら、仲間と力を合わせて一つのものをつくり上げる。その過程にこそ、大きな学びがあります。自分の役割に責任をもつこと、仲間

のよさや努力を認めること、思いどおりにならないときにも協力して乗り越えること。こうした経験は、これからの学校生活だけでなく、将来、社会の中で他者と協働していくための大切な力となります。

体育祭の後も、各学年では、それぞれの発達段階や将来を見据えた学習活動が進められています。一年生は福祉体験や二者面談を通して、他者への理解を深めるとともに、自分自身の学校生活を振り返る機会としています。二年生は職場体験に向けた取組を通して、働くことの意義や社会の中で果たす役割について学びを深めています。三年生は進路面談の練習に取り組み、自分の将来や進路希望について考えを整理し、自分の言葉で伝える力を養っています。こうした学びを通して、自分自身を見つめ、他者と関わりながら、将来に向けて一歩ずつ成長してほしいと願っています。

体育祭で得た達成感や仲間とのつながりを、一日限りの思い出にするのではなく、日常の学校生活にも生かしてほしいと思います。普段の授業や友人との関わりの中でも、相手の立場を考え、自分にできることを見付け、互いに支え合うことを大切にしていきましょう。

また、二学期も後半に入ります。学習面では、これまでに学んだことを振り返り、自分の課題を明確にして、一つ一つ着実に取り組むことが大切です。体育祭で発揮した集中力や粘り強さを、日々の学習にもつなげてほしいと思います。特に三年生にとっては、進路選択に向けて自分自身と向き合い、具体的な目標に向かって努力を重ねる大切な時期です。自分の可能性を信じ、日々の努力を積み重ねていきましょう。

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。今後とも、生徒一人一人の健やかな成長を支えてまいりますので、引き続き温かい御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げま　保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き生徒たちの成長を温かく見守り、御支援いただきますようお願い申し上げます。

校長　植田恭正



生徒たちの活躍の記録

～ 努力と成長の足跡 ～

地域の力をつないで子どもたちを守る ― 諏訪神社例大祭 夜間巡回警備 ―



夏の夜を彩る諏訪神社例大祭に合わせ、青少年対策地区委員会（青少対）主催によるPTA合同の夜間巡回警備が行われ、本校からもPTAを代表して４名の保護者の皆様にご参加いただきました。

この夜間巡回は一つの学校や地域だけで行われているものではありません。恩方中学校をはじめ、周辺の四谷中学校、元八王子中学校、城山中学校、横川中学校など５中学校が中心となり、それぞれの地区の青少対が連携・協力して実施しています。学校区の枠を越えて地域全体で子どもたちを見守る、大切な取組となっています。

祭り会場やその周辺には多くの露店が並び、子どもたちをはじめ多くの地域の方々で大変なにぎわいを見せていました。楽しい夏祭りだからこそ、事故やトラブルを未然に防ぎ、子どもたちが安心して過ごせる環境をつくることが重要です。巡回では会場内や周辺の様子を確認しながら、子どもたちの安全に目を配りました。

子どもたちの安全は、学校だけで守れるものではありません。保護者、地域、学校、そして近隣の学校がつながり、それぞれの立場から見守ることが大きな安心につながります。夜間にもかかわらずご協力いただいたPTA代表４名の皆様、各地区の青少対及び関係する皆様に心より感謝申し上げます。地域の皆様に支えられて子どもたちの安全が守られていることを、改めて実感する夜となりました。



職場体験に向けて本格始動！～体験事業所・メンバー発表と履歴書作成～

本日、職場体験に向けた事前学習を行い、生徒たちが体験させていただく事業所と、一緒に活動するメンバーを発表しました。

自分の体験先が決まると、生徒たちの表情にも期待と少しの緊張が見られ、いよいよ職場体験が具体的に動き始めました。発表後は、事前訪問に向けて履歴書の作成に取り組みました。

履歴書には、自分のことを相手に正確に伝えるという大切な役割があります。普段書き慣れている学校の提出物とは異なり、事業所の方に読んでいただく正式な書類です。生徒たちは、文字の丁寧さや言葉遣いにも気を配りながら、自分の長所や職場体験への意気込みなど、一つ一つの項目を真剣に考えて記入していました。

これから行う事前訪問では、実際にお世話になる事業所を訪れ、担当の方への挨拶や仕事内容、当日の集合時間、服装、持ち物などを確認します。電話のかけ方や挨拶、敬語など、社会の中で必要となるマナーを実践する機会でもあります。

職場体験は、単に「仕事を体験する」だけの行事ではありません。地域で働く方々との出会いを通して、働くことの意味や責任、人と関わることの大切さを学び、自分自身の将来について考える貴重な機会です。受け入れてくださる地域・事業所の皆様への感謝を忘れず、一人一人が実りある体験にできるよう、準備を進めていきます。

９月１日は「防災の日」

― 103 年前、恩方でも失われた命。その教訓を未来へ ―



■ なぜ９月１日が「防災の日」なのか

毎年９月１日は「防災の日」です。その原点には、1923 年（大正 12 年）９月１日午前 11 時 58 分に発生した関東大震災があります。相模湾北西部を震源とするマグニチュード 7.9 の巨大地震は、東京や神奈川を中心に甚大な被害をもたらしました。昼食の準備をしていた時間帯でもあり、各地で大規模な火災が発生。建物の倒壊、津波、土砂災害なども重なり、死者・行方不明者は 10 万人を超えました。

また、９月は台風などによる風水害が多い時期でもあります。関東大震災の教訓に加え、1959 年の伊勢湾台風など相次ぐ自然災害を背景として、1960 年に９月１日が「防災の日」と定められました。防災の日は、災害をただ恐れるための日ではありません。過去の災害から学び、これから起こる災害から命を守るために備える日なのです。

■ 関東大震災は、恩方でも起きていた

関東大震災というと、東京や横浜の大火災の映像や写真を思い浮かべるかもしれません。当時の八王子は京浜地方と比較すると被害が少なく、市街地では大規模な火災も発生しなかったとされています。しかし、「八王子は被害が少なかった」という言葉だけで終わらせてはいけません。現在の八王子市域でも建物の倒壊や土砂災害が発生しました。

そして、恩方に暮らす私たちが忘れてはならない記録があります。当時の恩方村・滝の沢では、地震による山崩れが発生し、一家が土砂に埋まり、複数の方が亡くなったことが記録されています。103 年前、今の私たちが生活しているこの地域でも、大地が揺れ、山が崩れ、かけがえのな

い命が失われました。これは、自然豊かな恩方に暮らす私たちに大切なことを教えてくれています。

大地震の危険は建物の倒壊や火災だけではありません。山や崖に近い場所では、地震によって土砂災害が発生する可能性があります。地震の揺れから命を守った「その後」にも危険があることを知っておかなければなりません。

■ 次の大地震は「いつか」ではありません



そして、大きな地震は過去の出来事ではありません。南関東の地下は複数のプレートが重なり合う複雑な構造になっています。政府の地震調査研究推進本部では、南関東地域で発生するマグニチュード 7 程度の地震について、今後 30 年以内の発生確率を 70%程度と評価しています。

「30 年以内」と聞くと、ずっと先のことのように感じるかもしれません。しかし、これは 30 年後に起きるという意味ではありません。10 年後かもしれない。来年かもしれない。そして、明日かもしれません。現在の科学では、大地震が発生する日時や場所を正確に予知することはできません。だからこそ、何も起きていない「今日」が、備えることのできる最も大切な時間なのです。

■ 「そのとき、自分はどこにいるだろう」

地震が学校にいる時間に起こるとは限りません。家で一人のとき、登下校中、部活動からの帰り道、友達と出掛けているときかもしれません。家族全員が別々の場所にいる可能性もあります。そのとき、「誰かが何とかしてくれる」とは限りません。

家具の転倒防止はできているか。水や食料は備蓄してあるか。地域の避難場所を知っているか。家族と離れている場合、どこで会うのか。電話がつながらないとき、どのように安否を確認するのか。ぜひ防災の日をきっかけに、家族で話し合ってみてください。

学校で行っている避難訓練も同じです。繰り返し行う訓練は、単なる学校行事ではありません。いつか本当に必要になるかもしれない、自分と誰かの命を守るための練習です。

■ 過去の悲しみを、未来の命を守る力へ

103 年前の 9 月 1 日。いつものように家族と過ごし、仕事をし、学校へ行き、明日も同じ日常が続くと信じていた多くの人たちが命を失いました。その中には、ここ恩方で暮らしていた人たちもいました。

私たちは地震そのものを止めることはできません。しかし、歴史から学ぶことはできます。備えることもできます。そして、その瞬間に正しく行動する力を身に付けることもできます。防災

用品を準備すること。避難場所を確認すること。家族で約束を決めること。訓練に真剣に参加すること。そのひとつひとつに込められているのは、とてもシンプルな願いです。「あなたに、生きていてほしい。」そして、自分自身にも、そう願ってください。「自分の命を大切にする。」

関東大震災を「昔、東京で起きた大地震」で終わらせず、「私たちの恩方でも起きた災害」として受け継いでいく。そして、そこで失われた命から学んだことを、これからの命を守る行動につなげていく。昨日の教訓を、今日の備えに。今日の備えを、明日の命へ。９月１日「防災の日」。家族や大切な人と、命を守るために自分たちに何ができるのか、もう一度考える一日にしてほしいと思います。

【注意喚起】インフルエンザの流行が始まっています

― 一人一人の予防を大切に ―



東京都から、都内でインフルエンザの流行が始まったとの発表がありました。令和８年第34週（８月17日～23日）の都内定点医療機関からの患者報告数は1.49人／定点となり、流行開始の目安となる1.0人／定点を超えています。例年より早い時期からの流行となっており、学校や家庭においても十分な注意が必要です。

東京都の資料では、学校や社会福祉施設等での集団感染事例も報告されています。９月に入り、二学期の学校生活も本格的に始まり、本校でもここ数年では初めて９月に１年生が学年閉鎖となりました。

これから体育祭に向けた取組や部活動など、生徒同士が一緒に活動する機会も増えてくるため、予防的側面もありましたが、友達同士の感染拡大が確認されたためです。夏の疲れが残りやすい時期でもあります。体調を崩さないためにも、今後も感染予防を改めて意識しましょう。

基本となるのは、こまめな手洗い・手指消毒、換気、咳エチケットです。咳やくしゃみなどの症状がある場合には、必要に応じてマスクを着用するなど、周囲への配慮も大切です。また、十分な睡眠と休養、バランスのとれた食事、適切な水分補給を心掛け、体調を整えておきましょう。東京都も、こうした基本的な感染予防策の徹底を呼び掛けています。

発熱や咳、強いだるさなど、いつもと違う症状がある場合には、無理をして登校せず、まずは家庭で健康状態を確認してください。必要に応じて医療機関への相談・受診をお願いします。感染症を完全に防ぐことは難しくても、一人一人の小さな行動が、学校全体への感染拡大を防ぐことにつながります。 生徒の皆さんが安心して二学期の学校生活を送ることができるよう、ご家庭におかれましても、毎朝の健康観察と感染予防へのご協力をお願いいたします。

離れていても、つながるクラス ― 学級閉鎖中にリモートホームルームを実施



インフルエンザの感染拡大により、1 年生と 2 年 1 組で学級閉鎖の措置をとりました。突然、友達や先生と顔を合わせることができなくなり、体調面だけでなく、学校生活や学習への不安を感じている生徒も出ました。

そこで本校では、学級閉鎖初日となった本日、GIGA スクール構想によって整備された一人 1 台端末を活用し、Google Meet によるリモートホームルームを実施しました。

画面には、昨日まで直接会えていたクラスメートの姿が次々と映し出されました。担任は一人ひとりの健康状態を確認するとともに、現在の学校や学級の状況、今後の予定などを伝えました。短い時間ではありますが、友達や先生の顔を見て言葉を交わすことは、家庭で過ごす生徒たちの安心にもつながります。

コロナ禍では、長期間の休校や外出自粛によって、人とのつながりが薄れ、孤独感や不安を抱える子どもたちが少なくありませんでした。私たちは、その経験から多くのことを学びました。感染症への対応では、感染を広げないことはもちろん大切ですが、同時に「学校と生徒とのつながりを途切れさせないこと」も重要です。

今回の学級閉鎖でも、単に「家庭で待機する期間」とするのではなく、ICT を活用しながら、生徒の健康状態や心の様子を継続して確認していきます。明日もリモートホームルームを実施し、状況を確認する予定です。

また、体調や通信環境などの事情でオンラインホームルームに参加できなかった生徒については、担任等から電話によるフォローアップを行います。画面に参加できたかどうかだけで判断するのではなく、一人ひとりの状況を確実に把握することを大切にします。

GIGA 端末は、学習のためだけの道具ではありません。学校と家庭、生徒と先生、そして仲間同

士をつなぐ大切なツールにもなります。
　離れていても、クラスはつながっています。
　感染拡大の一日も早い収束を願いながら、これからも生徒一人ひとりに寄り添い、安心して学校生活へ戻ることができるよう支援を続けてまいります。

本校生徒２名が「第 24 回 T シャツデザイン画 100 選」に入選！



　八王子ファッション都市協議会が主催する「第 24 回 T シャツデザイン画 100 選」において、本校生徒の笹野結心さん、雨宮沙菜さんの２名が見事入選しました。
　今年度は、「自分の着たいオリジナル T シャツ」のデザイン画が全国から 1,259 点寄せられ、その中から厳正な審査によってわずか 100 作品が入選作品として選ばれました。８月 18 日には東京たま未来メッセで表彰式も開催されています。（八王子商工会議所）
　２ 人には、八王子ファッション都市協議会から入選を称える賞状が贈られました。笹野さんの作品は、八王子をイメージさせる風景や自然、文化などを一つのデザインの中に色鮮やかに表現。雨宮さんの作品は、愛らしいブタをモチーフに、思わず目を引く個性的な発想で仕上げられています。
　自分のアイデアを形や色に置き換え、一枚の T シャツという身近な「ファッション」で表現する今回のコンテスト。全国から集まった多くの作品の中で、本校から ２ 名が 100 選に選ばれたことは大変うれしいニュースです。
　これからも、生徒一人一人がもっている豊かな感性や発想を大切にし、学校内外のさまざまな場で自分らしさを発揮してくれることを期待しています。笹野さん、雨宮さん、入選おめでとうございます！入選作品や各賞の結果は、八王子商工会議所「第 24 回 T シャツデザイン画 100 選」発表ページで紹介されています。

【AL＋GIGA 推進校】「聞く」から「考える・伝える」へ ― ICT と対話でつくる英語科研究授業



９月９日（水）、本校が今年度指定を受けている「AL＋GIGA 推進校」の取組の一環として、３ 年 ２ 組で英語科の研究授業を実施しました。授業者は秋守主幹教諭。今回の題材は「Take Action Listen３ バスのアナウンス」です。

ツアーで楽しむ場所を決め、自分のしたいことを相手に伝えるために、英語のアナウンスから必要な情報を聞き取ることを目標に授業が組み立てられました。

本校が AL＋GIGA の研究で大切にしているのは、ICT を使うことそのものではありません。ICT の特性を生かしながら、生徒一人一人が自分で考え、必要な情報を選び、仲間との対話を通して考えを深めていくことです。

今回の授業でも、英語を聞いて問題の正解を探すだけではなく、「自分はツアーでどこに行きたいのか」「そこで何をしたいのか」という、生徒自身の目的から学習が始まりました。授業では、まずペアで自分の考えを伝え合い、その後、バスのアナウンスを聞き取ります。同じ音声を聞いていても、自分が選んだ場所や目的によって必要となる情報は異なります。そのため、生徒は「全部を聞き取らなければならない」のではなく、自分にとって必要な情報は何かを考えながら英語を聞くことになります。聞き取った内容を確認した後には、再びペアでツアーで楽しみたい場所とその理由を伝え合いました。「聞く」「考える」「選ぶ」「伝える」という学びが一つの流れとしてつながる授業です。

また、本校ではオンライン英語コンテンツ English Central を継続的に活用しています。授業前には、各自が English Central で好きな短尺動画を選び、単語学習や動画内容の確認、発音練習などに取り組む活動も位置付けられています。ICT を活用することで、生徒がそれぞれの状況に応じて自分のペースで繰り返し学ぶことができる一方、授業ではペアや学級全体で考えを交流する場面を設けています。個別に学ぶ時間と、仲間と学ぶ時間をどう結び付けるかも、本校の研究における大切な視点です。

さらに、この取組は 11 月に実施される ESAT-J YEAR3 も見据えています。研究資料では、English Central を含めた ICT による個別最適な学びと、協働的な学びの実現を図りながら、ESAT-J の「話すこと」の問題にもつながる力を育てていくことが示されています。一台の端末があるだけで授業が変わるわけではありません。大切なのは、その端末を使って一人一人の学びをどう保障するのか、そして一人で完結させず、仲間との対話によってどう学びを広げていくのかという授業づくりです。今回の研究授業から得られた成果と課題を教員間で共有しながら、これからも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、生徒が主体となる授業づくりを学校全体で進めていきます。

【バドミントン部】一球に込めた思い――1 年生がつかんだ「準優勝」と「第３位」



９月 12 日（土）、エスフォルタアリーナ八王子を会場に「第 31 回八王子ジュニアバドミントン大会」が開催されました。市内各校などから多くの選手が集まる中、恩方中学校バドミントン部も各種目に出場。大きな体育館にシャトルを打つ音と選手たちの声が響く中、それぞれがこれまで積み重ねてきた練習の成果をぶつけました。

その中で素晴らしい結果を残したのが、中学女子１年生ダブルスです。

橋本零音さん・山本優那さんペアが準優勝、田邉彩菜さん・足立颯祁さんペアが第３位。 恩方中の１年生２ペアがそろって表彰台に立つという、うれしい結果となりました。

橋本・山本ペアは初戦を 15−11、15−5 のストレートで突破すると、続く試合も 15−5、15−12 で勝利し、決勝へ進出。決勝では相手ペアに 8−15、15−12、15−10 とフルゲームの末に惜しくも敗れましたが、最後の最後まで食らいつく堂々とした準優勝でした。

一方、田邉・足立ペアも勝ち上がり、第３位決定戦へ。そこでも簡単には終わりません。第１ゲームを 15−7 で先取した後、第２ゲームを 11−15 で落とし、勝負は最終ゲームへ。それでも気持ちを切らさず、最後は 15−3。二人でつないだシャトルが、見事に第３位という結果につながりました。

４人は、まだ中学校に入学して半年ほどの１年生です。４月には新しい仲間、新しい学校生活、そして新しい部活動が始まったばかりでした。思うようにシャトルを打てなかった日もあったはずです。フットワークが追いつかなかったり、ダブルスの動きがかみ合わなかったり、悔しい思いをしたこともあったでしょう。それでも練習を重ね、一本のシャトルを追い続けてきました。

その積み重ねが、大会という大きな舞台で一つの形になりました。

そして、ダブルスの魅力は「二人で戦う」ことにあります。自分が崩れそうなときには隣に仲間がいる。ミスをしても、パートナーの「次！」という声でもう一度前を向くことができる。自分のためだけではなく、「この一本を二人で取りたい」と思ったとき、普段以上の力が生まれることがあります。

今回の準優勝と第３位は、もちろん素晴らしい成績です。しかし、４人が手にしたものは順位だけではありません。勝った喜び、緊張する場面でラケットを握る勇気、パートナーを信じること、そして、あと一歩届かなかったからこそ生まれた「もっと強くなりたい」という思い。そのすべてが、これからの４人を成長させてくれるはずです。

準優勝の喜びの中に残った悔しさ。第３位をつかみ取った喜び。そして仲間と一緒だから乗り越えられた瞬間。――そのすべてが、次の一球につながっています。

１ 年生の挑戦は、まだ始まったばかりです。今日より明日、明日よりもっと強く。一球を大切

に、仲間を大切に。今回の経験を胸に、さらに高い舞台を目指して歩き始めた恩方中バドミントン部。４人が見せてくれた輝きは、これから続く新しい物語の、まだ最初のページです。

「働く」を学び、「未来」を考える――２年生 職場体験へ第一歩



２年生では、総合的な学習の時間における進路学習の一環として、10 月 27 日から職場体験を実施します。それに向けて、９月 17 日から体験先となる各事業所への事前訪問が始まりました。

今回の事前訪問も大切な進路学習の一つです。生徒たちは自分で作成した「履歴書」を手に、これからお世話になる職場を訪問します。学校外の、初めて会う事業所の担当者の方との面接では、自己紹介をするとともに、仕事内容や集合時間、服装、持ち物、働く上での注意事項などについて説明を受けます。

普段は先生や友達に囲まれて学校生活を送っている生徒たちにとって、初対面の大人と向き合い、自分の言葉で受け答えをすることも貴重な経験です。「きちんと挨拶できるだろうか」「しっかり話を聞いてこられるだろうか」。出発する生徒たちの表情からは、これから始まる職場体験への期待と、少しの緊張が感じられました。

また、事前訪問では、職場体験当日と同じように公共交通機関を利用します。普段、自転車で通学している生徒にとっては、電車やバスの時刻を調べ、乗り換えや目的地までの道順を確認し、自分たちで時間を管理して行動することも学習の一つです。生徒たちは２、３名の班に分かれ、それぞれの事業所へ向けて学校を出発しました。

職場体験では、例年 10～15 か所ほどの事業所に分かれ、学校生活だけでは知ることのできないさまざまな仕事を経験します。

「働く」とはどういうことなのか。社会の中で自分はどのような役割を担っていくのか。そして、将来どのような生き方をしていきたいのか――。

職場体験は、単に仕事を体験する行事ではありません。自分自身の将来について考える進路学習でもあります。履歴書を手に、期待と不安を胸に学校を出発した２年生。社会へ踏み出す第一歩が始まりました。

台風迫る中、急きょ「1 日決戦」へ！ 八王子市中学校陸上競技選手権大会

台風接近に伴い 20 日に大雨が予想されたことから、八王子市中学校陸上競技選手権大会は、予定を変更し、９月 19 日の一日開催として実施されました。

選手や競技役員の安全、交通機関への影響などを考慮し、二日間で予定されていた競技を一日に集約。限られた時間の中で大会を成立させるため、競技方法についても大きな変更が行われまし



た。
トラック種目は、すべてタイムレース決勝として実施。予選・決勝を行わず、各組の記録によって順位を決定しました。また、フィールド種目については、すべて試技数を３回として順位を決定しました。
さらに、開会式で予定されていた関東大会・全国大会出場者の表彰式を取りやめ、閉会式についても結果のアナウンスのみとするなど、大会全体をコンパクトに運営しました。
急な日程・競技方法の変更となりましたが、選手たちは集中力を切らすことなく、それぞれの種目に全力で挑みました。恩方中学校の陸上部員も、これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮しようと、それぞれの競技に力いっぱい臨みました。
大会運営に携わっていただいた競技役員、関係者の皆様、そして選手を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

【大会結果】



女子では、３年生の塚田愛菜さんが走幅跳で 4m90 を記録して優勝。中学校生活最後の市内大会で、これまで積み重ねてきた力を結果につなげました。また、２年生の岩本粋さんは 100m ハードルで 16 秒 96、第２位。さらに、３年生走幅跳では大貫明莉さんが 4m22 で第４位に入り、得点に貢献しました。１年生 4×100m リレーでも、清水満月さん、小林未夢さん、金子菜

莉さん、西原なずなさんがバトンをつなぎ、59 秒 96 で第７位。女子はさまざまな学年・種目で得点を積み重ね、女子総合 38 点、第９位となりました。

男子もフィールド種目を中心に健闘しました。2 年生の田口柊太さんは棒高跳で 3m00 を記録して第４位。３年生の粕谷圭さんは走高跳で 1m60、第７位に入りました。また、２年生の成谷海惺さんも走幅跳で入賞し、チームに貢献しました。３ 年生の堀空さんは投てき種目で力を発揮し、円盤投では 24m06 で第６位、砲丸投でも 8m22 で第８位。最後まで粘り強く全力で競技に向き合いました。男子は各種目で着実に得点を重ね、男子総合 23 点、第 12 位となりました。

そして、この大会の価値は入賞や得点だけではありません。100m、200m、800m、1500m、ハードル、リレー、走幅跳、走高跳、棒高跳、砲丸投、円盤投など、それぞれの種目に出場した選手が、過去の自分の記録に挑戦しました。競技を終えた仲間が次の選手を応援し、一人の頑張りを陸上部全体で支える姿も印象的でした。陸上競技は個人競技に見えます。しかし、毎日の練習をともにし、声を掛け合い、互いの成長を喜び合うことで、一人一人の力が「チーム恩方」の力になります。特に３年生にとっては、後輩たちへその姿を伝える大切な大会にもなりました。記録が伸びた喜びも、あと一歩届かなかった悔しさも、すべてが次への力になります。

熱中症対策も“見える化”へ

――八王子市内初の WBGT をスマホで確認、学校安全を DX



「今、校庭で活動を続けても大丈夫か？」

厳しい暑さが続く中、学校ではこれまで以上に迅速で的確な判断が求められています。特に体育の授業や部活動、体育祭に向けた練習では、熱中症から生徒を守るための安全管理が欠かせま

せん。

本校では今年度、熱中症対策をさらに充実させるため、八王子市立中学校では初となる、「NETS ZERO」による暑さ指数（WBGT）をリアルタイムで確認できるシステムを導入しました。これまでも教職員が測定器を使って校庭などの WBGT を確認し、活動の実施や休憩、活動内容の変更・中止などを判断してきました。しかし、測定のたびに現場へ出向く必要があり、測定者による誤差が生じたり、時間とともに変化する暑さを継続的に把握することにも課題がありました。

今回導入した仕組みでは、センサーが測定した WBGT 値をクラウド上に保存し、教職員がスマートフォンやパソコンからリアルタイムで確認できます。

いわば、「測りに行く」安全管理から、「いつでも確認できる」安全管理への転換です。

新たな仕組みで変わる熱中症対策

WBGT をリアルタイムで確認

校庭などの暑さの状況を、スマートフォンやパソコンから随時把握できます。

危険な暑さへの対応を迅速化

体育や部活動、体育祭練習などについて、休憩、活動時間の短縮、内容変更、中止などを速やかに判断できます。

暑さの変化を継続して把握

一時点の測定ではなく、時間とともに変化する WBGT を継続的に確認できます。

教職員の負担を軽減

測定のために現場へ移動する作業を減らし、生徒の健康観察や安全確認に、より力を注ぐことができます。

蓄積したデータを今後の安全対策へ

測定データを蓄積し、体育祭や部活動などの活動計画や安全対策にも生かしていきます。

もちろん、数値だけで活動の可否を決めるわけではありません。生徒一人一人の体調、活動内容、水分・塩分補給、休憩の状況などを教職員が確認し、WBGT を客観的な判断材料の一つとして活用します。

体育祭に向けた練習もこれから本格化します。生徒たちが仲間と力を合わせ、思い切り挑戦できる環境をつくるためには、「頑張れる環境をつくること」と同時に、「危険を早く察知して止めること」も学校の重要な役割です。

ICT は授業や学習だけに活用するものではありません。学校安全の分野でも、リアルタイムのデータと教職員の目を組み合わせることで、より迅速で確実な対応につなげることができます。

「経験や感覚」に、リアルタイムの「データ」を加える。

八王子市内初となる今回の取組を、生徒の命と健康を守る新たな学校安全の一歩として、本校ではその効果を検証しながら、より安全・安心な教育環境づくりを進めていきます。

【生徒の皆さんへ大切なお知らせ】クマに注意！みんなで安全な行動を確認しよう



28 日（月）、恩方中学校の学区内である小津町で、ツキノワグマ 1 頭が、イノシシなどを捕まえるために設置されていた罠にかかっていることが確認されました。

罠にかかったクマは、驚いたり興奮したりして、どのような行動をするかわからないため、とても危険です。

そのため八王子市では、周辺に人が近づかないよう安全を確保した上で、専門の方々による対応を行い、クマを駆除しました。

みなさんの安全を守るために、多くの人が動いてくれました

今回クマが見つかった場所は、住宅があり、恩方中学校の生徒が通学する地域でもあります。

そのため、初宿和夫八王子市長をはじめ、市の関係者や警察、クマ対応の専門家の方々が、生徒や地域の皆さんの安全を第一に考えて対応してくださいました。

今回、けがをした人はいません。

しかし、ここで「もう大丈夫」と考えてはいけません。

小津町だけの話ではありません

今回クマが確認されたのは小津町ですが、注意するのは小津町に住んでいる人だけではありま

せん。
　恩方地区は、上恩方町・下恩方町・小津町などが山でつながっています。恩方地区全体がツキノワグマの生息する地域です。
　これまでも恩方地区ではクマの目撃や足跡などが確認されています。
　だからこそ、恩方中学校の全員がクマへの正しい知識をもち、安全な行動をすることが大切です。

29 日（火）から、もう一度確認しよう！



① 熊鈴を必ずつけよう

登下校では熊鈴を必ず身につけましょう。音を出して、「ここに人がいるよ」とクマに知らせることが、出会わないための大切な対策です。

② 小津町方面から登校する人は特に注意しよう

29 日（火）はできるだけ自転車での登校を避け、可能な場合は保護者の方に送ってもらってください。

③ 一番大切なのは「クマと出会わないこと」

山林や茂みの近くでは周囲に注意しましょう。早朝や夕方、日没後などの薄暗い時間帯には特に注意が必要です。登下校だけでなく、塾や習い事に行くときも同じです。

④ もしクマに出会ってしまったら

慌てて大声を出したり、背中を向けて走って逃げたりしないでください。落ち着いて、クマを刺激しないようにしながら、ゆっくりと距離をとりましょう。

不安なときは、一人で悩まないでください

　学校は 29 日（火）も通常どおり授業を行います。

ただし、今回のことで登校することに不安を感じる場合は、保護者の方や先生に相談してください。リモートで授業に参加できるよう学校で対応します。

中間テスト終了後の部活動や放課後の活動についても、不安がある場合は担任や顧問の先生に相談してください。

29日（火）の朝、全校でもう一度確認します

29日（火）の朝には、全校放送でクマから自分の身を守るための行動を改めて確認します。覚えてほしいことは、二つです。

「まず、クマと出会わないようにする」

「もし出会ってしまっても、慌てず冷静に行動する」

学校も八王子市や地域の皆さんと情報を共有しながら、みなさんの安全を守るための取組を続けていきます。

「こわがりすぎない。でも、油断しない。」

今回のクマはすでに市による対応が行われました。しかし、恩方地区は山でつながっており、クマが生活している地域でもあります。

小津町の人だけの問題ではありません。

恩方中学校のみんなで、熊鈴をつけ、正しい知識をもち、安全な行動を続けていきましょう。

【特別授業】献血について、大学生から学びました



本日の１時間目、杏林大学の学生の皆さんをお招きし、「献血知識普及授業」を実施しました。今回の授業では、献血の歴史から始まり、血液や献血に関するさまざまな知識について、クイズなども交えながら分かりやすく教えていただきました。

「血液型占いには科学的な根拠があるの？」「どのような人が献血できるの？」「学校から一番

近い献血ルームはどこ？」など、普段何気なく耳にしていることから、実際に献血をするときに必要となる知識まで、生徒にとって興味深い内容が続きました。

若い世代に献血を身近に感じてもらうために

今回の授業を企画・実施してくださったのは、杏林大学の学生の皆さんです。

若い世代の献血離れが課題となる中、学生の皆さんは「同じ若い世代の立場から、献血に対する心理的・物理的なハードルを少しでも低くするためにできることはないか」と考え、今回の取り組みを企画してくださいました。

生徒たちにとっても、自分たちと年齢の近い大学生から直接話を聞くことで、献血をより身近なものとして考える機会となりました。

生徒からもたくさんの質問が

授業の中では、生徒からもさまざまな質問が出ました。

「献血をした後に、体調が悪くなったりすることはありますか？」

「大学生の皆さんは、実際に献血をしたことがありますか？」

こうした質問に対して、学生の皆さんは、献血会場では看護師などのスタッフが安全面に配慮して対応していることを説明したり、自分自身が献血をしたときの経験を紹介したりしながら、一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

「それまで自分の血液型を知らなかったけれど、献血をきっかけに知ることができた」という実体験も紹介され、生徒たちは興味深そうに耳を傾けていました。

「誰かのためにできること」を考える機会に

献血には年齢や体重など一定の基準があり、種類によっては 16 歳から協力することができます。中学生の生徒たちにとって、献血は今すぐ自分が行うものではありません。しかし、数年後には自分自身が「誰かの命を支える側」になることができます。

今回の授業は、献血についての知識を学ぶだけではなく、社会の中にある課題を知り、「誰かのために、自分にできることは何だろう」と考える貴重な機会となりました。

また、大学生が社会的な課題について自分たちで考え、実際の行動につなげている姿も、生徒たちにとって大きな学びになったことと思います。

杏林大学の皆さん、ありがとうございました！

学生の皆さんは、今回の取り組みについて「大学コンソーシアム八王子」で発表される予定とのことです。

杏林大学の学生の皆さん、貴重な学びの機会をありがとうございました。

発表も頑張ってください！

恩方中学校一同、応援しています！

前期最後の生徒会朝礼――３年生から１・２年生へ、次の世代へバトンタッチ







９ 月度の生徒会朝礼を行いました。今回の朝礼は、前期最後の生徒会朝礼です。各種委員会をまとめてきた委員長にとっては、この朝礼をもって一つの任期の区切りを迎えることになります。

前期の委員会活動では、それぞれの委員長を中心に、よりよい学校生活をつくるための取組を進めてきました。全校生徒の前に立って活動を呼びかけたり、委員会をまとめたりすることは、決して簡単なことではありません。それでも、自分たちの学校を自分たちの力でよりよくしようと活動してきた委員長、そして委員の皆さん。本当にお疲れさまでした。

そして、今回の朝礼にはもう一つ大きな意味があります。

これまで各種委員会の委員長を務めてきた３年生が、委員長として生徒会朝礼に臨むのは今回が最後となります。体育祭終了後からは後期の委員会活動が始まり、学校を支え、動かしていく役割は、少しずつ１・２年生へと引き継がれていきます。生徒会執行部も後期からは２年生が中心となり、１年生とともに恩方中学校の新しい生徒会活動をつくっていきます。

３年生から１・２年生へ――。

毎年繰り返されてきたこのバトンタッチは、学校にとって大切な節目です。３ 年生がこれまで築いてきた伝統や思いを受け継ぎながら、１・２年生には自分たちらしい新しい学校づくりに挑戦していってほしいと思います。

【９月度避難訓練】「先生がいる」とは限らない――自分で命を守る力を

９ 月度の避難訓練を、火災発生を想定して実施しました。今回の訓練では、北区の小学校で発生した火災を踏まえ、普段は火の気がほとんどない音楽準備室から出火したという想定で行いました。「ここなら火事は起こらない」と思っている場所でも、火災が発生する可能性はあります。だからこそ、あらかじめ決められた動きだけを確認するのではなく、予想していなかった場所で火災が発生したときにどう行動するかを考える訓練としました。

火災発生の放送を受け、生徒たちは教員の指示に従い、落ち着いて避難を開始しました。校舎内では大きな混乱もなく、全校生徒が粛々と移動する姿が見られました。中には、ハンカチを口元に当てながら避難する１年生の姿もあり、これまで学んできたことを実際の行動につなげていました。



本来であれば校庭へ避難する訓練ですが、都心では長雨が続き、35 日連続で雨を観測する異例の天候となっています。この日の校庭の状況も考慮し、急きょ体育館を避難場所としました。しかし、雨が降っているから火災が起こらないという保証はありません。予定していた条件と違っていても、その場の状況に応じて安全な行動をとることも、防災では大切な力です。

訓練終了後には、早川副校長から全校生徒へ講評がありました。北区の小学校で起きた火災では、大きな火災となったにもかかわらず、児童が日頃の避難訓練を生かして行動したことに触れ、「訓練は、本当に起きたときのために行っている」ことを改めて確認しました。

特に強調したのが、火災では炎だけでなく煙が大きな危険になるということです。煙を吸い込むことで動けなくなり、自分の力で避難することが難しくなる場合があります。そのため、ハンカチなどで口や鼻を覆い、姿勢を低くして煙をできるだけ吸わないことが重要です。普段からハンカチを携帯することも、自分の命を守る備えの一つです。

さらに講評では、「学校では先生たち大人が周囲にいて、避難を指示してくれる。しかし、災害は学校にいるときだけ起こるわけではない」と生徒たちに伝えました。駅、商業施設、旅行先、将来の職場など、どこにいても火災や災害に遭遇する可能性があります。初めて訪れた場所でも、非常口や避難経路を意識して確認する習慣を身に付けてほしいと思います。

３ 年生は半年後には高校生となり、恩方中学校を離れて新しい生活を始めます。２ 年生は来月の職場体験で、学校とは異なる環境で活動します。１ 年生もこれからスキー移動教室を迎え、普段とは違う場所で集団生活を経験します。もし、その場所で災害が起きたらどうするのか。いつも恩方中学校の先生がそばにいるとは限りません。

訓練の目的は、「指示どおりに避難できた」で終わることではありません。周囲を見て、危険を考え、命を守るために行動できる人になること。今回の訓練を、そのための一歩としていきます。

４校の先生がつなぐ、子どもたちの９年間 ― 小・中連携の日



１０月７日（水）、恩方第二小学校を会場に、令和８年度第２回「小・中連携の日」を実施しました。恩方第一小学校、恩方第二小学校、元木小学校、恩方中学校の教職員が集まり、地域の子どもたちの成長を９年間で支えるため、授業参観と分科会を通して連携を深めました。

今回の目的は、４校に共通する教育課題を共有し、「９年間で育てる子ども像」の実現に向けた取組を具体化することです。小学校で積み重ねてきた学びや経験を、中学校でのさらなる成長につなげるため、学校や学年を越えた視点で教育について考えました。はじめに、恩方第二小学校の各学年の授業を参観しました。図画工作、国語、社会、総合的な学習の時間などを通して、小学校での学習内容や指導の工夫に触れました。中学校の教員にとっても、生徒たちが入学までにどのような学びを重ねているのかを知り、日々の授業や関わり方を見つめ直す貴重な機会となりました。

続いて行われた分科会では、国語、算数・数学、外国語活動・英語など、教科等ごとに分かれて協議しました。小学校と中学校の学習のつながりを意識しながら、子どもたちの力を継続して伸ばしていくための指導について考えました。さらに、教務、研究・教科、生活指導、特別活動、特別支援・養護の分野に分かれ、学校生活や支援の在り方について検討しました。学力の向上だけでなく、安心して過ごせる環境づくりや、一人一人に応じた支援も、４校が共に取り組む大切な課題です。

子どもたちの成長は、小学校の卒業と中学校の入学で区切られるものではありません。これまでの頑張りや思いを受け止め、次の一歩へとつなぐために、教職員同士が顔を合わせ、共に考えることには大きな意味があります。「恩方の子どもは恩方で育てる」。その思いを共有し、今回の協議を各校での実践に生かしながら、４校で切れ目のない学びと支援の充実を図ってまいります。

1,000 キロメートルを越えてつながる心 ―「遠いまち」が「仲間のいるまち」に



１０月８日（木）、北海道苫小牧市立勇払中学校の全校生徒の皆さんと、本校の１年生が交流会を行いました。陸路と海路で 1,000 キロメートル以上離れた両校。今回は、それぞれが暮らす八王子と苫小牧について紹介し合いました。遠く離れていても、相手の声を聞き、思いを受け止めることで心は近づく。そのつながりを育む、大切な時間となりました。

今日の交流を支えたのは、生徒たちが積み重ねてきた準備です。発表を担当する代表班は、内容を確認・修正し、練習を重ねてきました。「どんな言葉なら分かりやすいだろう」「どう伝えたら楽しんでもらえるだろう」。相手を思い浮かべながら工夫する姿には、自分たちの役割を果たそうとする責任感と、人を思いやる心が表れていました。

代表班以外の生徒たちも、八王子と苫小牧の関係や、両校の交流について調べ、学びを深めてきました。発表を届ける人、それを受け止め、交流を支える人。それぞれの取組があって迎えた今日です。人前に立つ姿はもちろん、そこに至るまでの一人一人の努力にも、温かな拍手を送りたいと思います。

交流会では、本校から八王子を紹介し、勇払中学校の皆さんから苫小牧について紹介していただきました。自分たちには見慣れた景色や身近な文化も、相手にとっては新鮮な発見です。また、ふるさとの魅力を誰かに伝えることは、自分たちを育ててくれた地域のよさを見つめ直すことでもあります。互いの紹介を通して、二つのまちを知る学びが広がりました。

ここ数年、両校は直接顔を合わせる機会も増えています。苫小牧の港まつりでは本校の３年生が訪問させていただき、修学旅行でも勇払中学校を訪れました。温かく迎えてくださった生徒の皆さん、先生方、地域の方々。その出会いの積み重ねが、今日の交流へとつながっています。

一緒に過ごした人がいる。もう一度会いたいと思う仲間がいる。それだけで、遠いまちは特別

な場所になります。先輩たちが育んできたそのつながりに、今回は本校の１年生が加わりました。交流の歴史を学ぶだけでなく、自分たちもその続きをつくる一員になったのです。

当日は、本校を代表は植田校長に代わって早川副校長が挨拶し、これまでの交流への感謝と、出会いを未来へつないでほしいという願いを伝えました。学校同士の絆を育てるのは、一人一人の「もっと知りたい」「また会いたい」という思いです。今日知ったまちの名前を、いつかニュースや地図で見つけたとき、「あの仲間たちが暮らすまちだ」と思い出せることも、交流が残してくれる大切な贈り物です。

保護者の皆様も、ぜひお子さんに、何を伝え、どんなことを知ったのか聞いてみてください。その言葉の中には、準備を頑張った思いや新しい発見、少し広がった世界があることと思います。

勇払中学校の新倉校長から最後の挨拶にあった「1,000 キロメートルを越えた先に、自分たちとつながる仲間がいる」ことを忘れず、今日の出会いがこれからの再会を楽しみにする気持ちへと育っていくことを願っています。勇払中学校の皆さん、先生方、ありがとうございました。これからも、互いの成長を喜び合える絆を大切にしてまいります。

未来の自分に出会う時間―２年生「ジョブトーク」



２年生で「ジョブトーク～みんなで考える仕事のこと～」を実施しました。一般社団法人八王子青年会議所のご協力のもと、社会で活躍する方々との出会いを通して、働く意味や自分自身の将来について考える学習です。

今回お迎えしたのは、オネストフットボールスクール代表の斎藤光記さん、デザイナーの柴田圭子さん、理学療法士の新倉圭介さんです。スポーツ、デザイン、医療という異なる分野で働く３名の皆様にお話しいただき、仕事と社会とのつながりについて理解を深める機会となりました。

生徒たちは事前学習で、「働くとはどういうことだろう」「自分が社会人だったら、何を目的に働くだろう」という問いに向き合ってきました。生活のため、自分の好きなことや得意なことを

生かすため、誰かの役に立つため。今回は、自分なりに考えた働く目的を、実際に働く方々のお話と重ね合わせながら見つめ直しました。

　職業によって、仕事内容や必要な知識、技術は異なります。しかし、その先には必ず、その仕事を必要とする人がいます。子どもたちの成長を支えること、思いやアイデアを形にすること、体の機能や日々の暮らしを支えること。３つの分野との出会いは、社会には様々な形で人を支える仕事があることに目を向けるきっかけとなりました。

　将来を考えるとき、大切なのは「何になるか」とともに、「どのように働き、どのように生きたいか」を考えることです。今すぐに答えが見つからなくてもかまいません。知らなかった世界に触れ、自分の心が動く瞬間を重ねることが、未来の選択につながっていきます。

　今回の学びを、職場体験や毎日の学校生活にも生かしてほしいと思います。挨拶をする、約束を守る、仲間と協力する、役割を最後まで果たす。その積み重ねが、社会で信頼される自分を育てます。

　お忙しい中、生徒たちのためにお力添えくださった講師の皆様、八王子青年会議所の皆様に心より感謝申し上げます。地域の大人との出会いを通して、２年生が自分らしい未来への一歩を踏み出すことを願っています。

